

総合分析

試験区分	一般 (前期2)
------	----------

制限時間	60分 (理科 2 科120分)	大問数	全 5 問
------	------------------	-----	-------

合格に要する能力 (5段階)



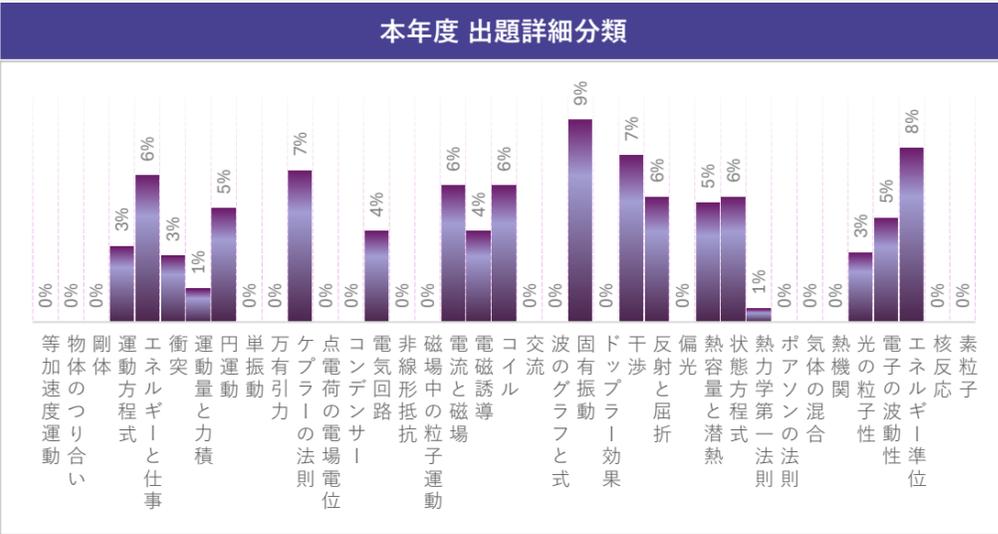
合格に要する能力 (5段階)		
基礎力	2.8	原理についての理解
応用力	3.5	演習経験による慣れ
知識力	2.9	用語を正確に覚えているか
把握力	3.0	臨機応変に状況を把握する力
見極力	3.5	解きやすい問題を選択する力

特記事項	特になし
------	------

出題分野	
力学	26%
電磁気学	20%
波動	22%
熱力学	11%
原子物理	15%

本年度 解答形式	
選択肢	100%

本年度出題テーマ一覧	
第 1 問	小問集合
第 2 問	人工衛星軌道
第 3 問	相互誘導と変圧器
第 4 問	マイケルソン干渉計
第 5 問	水素原子のボーア模型



特殊問題の有無	近似計算なし	グラフなし
正誤問題なし	理由記述なし	数値計算あり

総合評価			
難度	3.1	最難を 5 とする問題自体の難度	標準
分量	65分	完答に要する時間 (制限時間は60分)	やや多い
一次合格に必要な正答率 (予想)			78%
高い正答率を要する			

入試の特徴と対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 設問ごとにテーマが一貫しており、目標に向かう流れがある。速やかなテーマの把握が鍵となる。</li> <li>▶ 入試問題としてありふれた題材が多い。単純に演習量で十分に対策できる。</li> <li>▶ 同時に複数の事柄への理解を要する出題が多い。独力で解法を組み立てる力を要する。</li> </ul>
入試から見る大学が求める学生像	<p>極めて私大医学部らしい安定感のある出題である。難しい題材には少し誘導が入るが確かな基礎力がなければ解答は難しい。出題分野に大きな偏りはない。概ね典型的な出題である。広い見識を持ったうえで、経験した信頼性のある解法を適切に素早く行使する、といった臨床医に要する能力が問われていると思われる。</p>